

平成 18 年 3 月 28 日

「スunks研究会発足」に当たって

宮木孝昌先生並びに易 勤先生のご尽力により、このたび解剖学会の研究集会・懇話会の一つとしてスunks研究会が発足する運びとなりました。このことは 25 年以上スunksの形態学的研究に従事したものであるとして望外の喜びです。

スunksは、ここに居られる名古屋大学の織田銑一先生が主になって開発された日本独自の実験動物ですが、全ての恐竜を滅ぼすような過酷な地球環境を乗り越え、中生代半ばから新生代へと 1 億年以上絶えることなく生き続け、現在でも亜熱帯地方に広く住みついて活動していることが知られています。

このような歴史を有するスunksを、形態学的にも生理学的にもヒトの祖先動物の一つとして探求し、原型を探ると同時にその発展形態や特異性について追求してゆくことに大きな意義があると言えますでしょう。

都合により今日は出席できませんが、当研究会の発展を心よりお祈りいたします。

藤田保健衛生大学 磯村源蔵